

せいぶん
聖文の
はなし
お話の時間

ノーマン・ヒル
(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

このお話は、ガーナでの出来事です。

「読み聞かせの時間です」と、オトー先生が言いました。
「読」ニヤミエはせずじをのばしてすわりました。読み聞かせは楽しい時間です!

毎日学校で、先生はクラスの生徒たちに本を声に出して読んでくれます。動物について読むこともあります。ほかの国の人々について読むこともあります。そして時々クラスの生徒たちに、読んでほしい本があるかとたずねることもあります。

「今日、読んでほしい本を持っている人はいますか?」と、オトー先生がたずねました。

ニヤミエは手を挙げました。「あります!」かばんに手をのばし、お気に入りの本を取り出しました。『モルモン書物語』です! 放課後、お母さんのおむかえを待つ間読むために持って来ていたのです。絵を見ることが聖文の物語を理解する助けになります。

「今日、読んでほしい本を持っている人はいますか?」と、オトー先生がたずねました。



イラスト: アン・チェン・リウ

オトー先生はその大きな本を見とにっこりしました。「全部を読む時間はないでしょう。特に読んでほしい部分がありますか?」

「はい」と、ニヤミエは言い、お気に入りのお話のところまで、ページをめくりました。「この部分を読んでもらえますか? 『リーハイのゆめ』というお話です。」

「これは何についてのお話かな?」と、オトー先生はたずねました。

「じげんを見た預言者についてです。その預言者は、おいしい実のなる美しい木を見たんです。」ニヤミエは木の絵を指さしました。「そして家族と一緒に実を食べてほしいと思ったんです。読んでもらえますか?」ニヤミエは先生に本をわたしました。

「もちろんだよ」と、オトー先生は言いました。それから、先生は声に出して読み始めました。木に通じるせまい道について読みました。鉄のぼうについて読みました。そして、いましめを守ることに読みました。

ニヤミエの友達セロームが手を挙げ、「それは何の木なの?」と、ニヤミエにたずねました。

「分からない」と、ニヤミエは言いました。「でもその実はと

てもおいしかったんだ。きっとマンゴーの木よりもいいものにちがいないよ!」それからニヤミエは少し考えました。「教会で、その実は神様の愛を表しているって教わったんだ。だから、その実がとてもおいしくて特別だということもわかるよね!」

授業が終わると、ニヤミエはお母さんを待つため外にすわりました。もう少し読もうと思い、『モルモン書物語』を取り出しました。

「すてきなお話だったよ」と、セロームが言って、ニヤミエのとなりにすわりました。「ほかのお話を一緒に読んでもいい?」

「もちろん!」ニヤミエはほかのお話を開きました。アピナダイとノア王について一緒に読みました。

お話を聞こうと、クラスメートがもっと集まってきました。質問があると、ニヤミエが答えました。読んだお話についてみんなに質問するために、クイズまで出しました!

間もなく、ニヤミエはお母さんが歩いて来るのが見えました。「一緒に読んでくれてありがとう」と、ニヤミエはほかの子たちに言いました。そして本をとして、にっこりしました。自分が大好きなお話を友達も気に入ってくれて、とてもうれしく思いました。●